

委員会活動報告

本年度はコロナ禍のため市内を視察

総務常任委員会

廃止統合再編される保健センター分館、白岡消防署及び篠津分署について

10月19日(火) 白岡消防署、白岡消防署篠津分署、安心安全課、財政課

初めに、白岡消防署を視察した。白岡消防署は、昭和48年4月、白岡町消防本部として設置された後に、昭和51年4月、現在の消防庁舎が建築され、昭和62年3月、平屋建ての車庫が増築された。新型コロナ対策として密を避けるため、2階の会議室にベッドを置き、仮眠室としても利用しているなどの説明を受けた。



次に、保健センター分館を視察した。保健センター分館は、昭和55年の建設以来、

保健センターとして利用され、保健センター機能の移転後は、高齢者の筋力トレーニングルーム、教育支援センター、観光協会の事務所として利用されている。

最後に、篠津分署を視察した。篠津分署は、平成25年3月に竣工し、鉄骨造の2階建てである。倉庫棟や消毒室のほか、救急仮眠室や消防仮眠室、屋上には太陽光発電設備があり、それぞれの設備を視察した。

今後、統廃合するこれらの施設は、決して単純なコスト削減ではないと思われるので、執行部には市民の安全と利便性をしっかりと考えた対応を要望したい。

文教厚生常任委員会

介護保険の現状と第8期介護保険事業計画について

10月20日(水) 高齢介護課

高齢介護課から介護保険の現状と第8期介護保険事業計画について説明を受けた。

説明によれば、介護予防及び高齢者の生きがいづくりとして、高齢者の介護予防・フレイル対策を推進するため、介護予防教室として「シニア元気アップ教室」を開催し、教室の空き時間には、トレーニングマシンを用いた筋力向上トレーニングや健だま運動を実施している。

また、高齢者がこれまでに得た技能や経験を生かすことができるようシルバー人材センターとも連携し、高齢者の就労機会の拡大を図っている。

高齢者の方々が元気でいられる秘訣は、社会とのつながり、やりがいや充実、適度な運動ではないかと考える。これらの方々がもっと地域づくりに参加しやすくなるような「仕掛け」や「社会参加の入口」を作っていく必要性を感じ、そのためには既存の事業だけでなく、研究を進め、多様な事業展開をすることを期待していきたい。



産業建設常任委員会

本市の商工業の現状と今後の展望について

10月26日(火) 白岡市商工会、商工観光課

白岡市商工会から本市の商工業の現状や商工会の取組等について説明を受けた。

コロナ禍における商工会の運営については、会員の要望に対する取組として、各種支援金、給付金等の相談及び申請支援が一番多かったため職員全員で対応したほか、資金繰り(融資あっせん)や感染防止資材の調達先等の相談があったと説明を



を受けた。

また、市独自支援策として、2年度は、白岡市プレミアム付商品券事業、テナント家賃補助事業の実施など、3年度は、第2弾白岡市プレミアム付商品券事業、Pay Payキャンペーン事業の実施などがあったと説明を受けた。

商工会の活動は、本市の発展に大変重要な役割を担っていることから、商工業者に対する細やかな対応はもとより、魅力ある情報を発信し続け、いろいろな世代を巻き込み、確かな集客につないで、商工業者の更なる発展に寄与していただくよう期待する。